

大河原農業改良普及センターだより



麦わらぼうし

発行：宮城県大河原農業改良普及センター

〒989-1243

宮城県柴田郡大河原町字南129番1号(宮城県大河原合同庁舎内)

電話 0224-53-3519 FAX 0224-53-3138

e-mail oknokai@pref.miyagi.lg.jp

HP <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ok-nokai/>醸造用ぶどうせん定講習会(村田町)
初めての収穫が期待されています。

新たな時代に対応した仙南農業の振興

昨年からの新型コロナウイルスの感染拡大により、不要不急の外出自粛や飲食店等に対する休業や時短営業要請が国等から発せられ、経済活動に大きな影響を及ぼしています。農業生産面でもこうした社会の変化や新しい生活様式への対応が必要となり、経営環境も大きく変化しました。

今年は、東日本大震災から10年が経過します。宮城県では県政運営の指針である「新・宮城の将来ビジョン」、農業・農村の振興に関する基本的な計画である「第3期みやぎ食と農の県民条例基本計画」の初年度となります。また、仙南地域のさらなる発展に向け大河原地方振興事務所が策定する「仙南地域振興方針」も改訂される予定です。

これらを踏まえ普及センターでは令和3年度から7年度までの普及指導活動の基本方針を見直し、3つの重点推進事項「仙南の豊かな資源を生かした持続的な農業に取り組む経営体の支援」、「仙南農業の基盤を支える強靱で自然と調和した地域づくり」、「令和元年東日本台風被害からの復興推進及び原発事故被害等に対する継続支援」を課題に位置づけ、具体的な活動を展開することとしています。

今後とも普及センターでは、農業者の皆様との直接の対話を大切に、意見や課題に正面から向き合い、課題解決につなげるよう市・町やJA等関係機関と連携し、持続可能な地域農業の推進と経営発展につながるよう支援に努めてまいりますので、御理解と御協力をお願い申し上げます。

大河原地方振興事務所農業振興部

兼大河原農業改良普及センター

技術副参事兼次長(総括担当) 渡邊 真文



令和2年度 プロジェクト課題 成果

令和元年東日本台風の被災地域における担い手を中心とした営農再開

丸森町を中心とした台風被災地域では、今年春の営農に向けて準備が行われています。

(1) 竹谷，羽入，矢田地区などの平坦部の取組

被災水田における地力増進作物の栽培により営農継続を支援しました。今年春には、被災農地の一部で水稻栽培が再開される見込みであることから、復旧後の水稻技術指導を行った他、町や農家の皆さん、JAなどと土壌条件にあった水稻以外の作物選定などの検討を行いました。また、竹谷，新町・羽入地区では農地整備計画があることから、ビジョンなどの策定支援の他、将来の担い手の確保，育成に向けた検討を行っています。



営農再開を果たした稲作農家

(2) 耕野，大張，筆甫などの中山間部の取組

被災が引き金になる離農が懸念されたことから、営農継続のため地力増進作物の栽培を支援しました。復旧工事は令和3年度に開始されますが、復旧後に収益性の高い農業が展開できるよう、農業者との意見交換を随時行い、品目の選定や栽培方法の検討により不安なく営農再開できるように支援しました。



わらび栽培講習会

(3) 中山間地域における農村振興

丸森町の魅力となっている耕野のころ柿，大張の棚田，筆甫のへそ大根などを核とした活動を支援し，営農意欲の向上を図りました。来年度も地域資源を掘り起こし，それらを活用した農産加工品の開発の取組みが継続されていく見通しです。

令和元年東日本台風の被災地における主要な園芸品目の早期営農再開と生産の安定

令和元年東日本台風で大きな被害を受けた，主要な園芸品目（いちご，ブロッコリー，長ねぎ，花き）の営農再開に向け土壌分析を基に適正な肥培管理や病害虫防除の徹底等を丁寧支援しました。

この結果，生育回復に貢献でき，被災前に比べて，出荷量はいちご82%，ブロッコリー93%，花き80%を確保することができ，台風の被害を最小限に止めることができました。

また，いちごでは，更なる出荷量の増大に向けて，光合成促進機を導入し収量向上を目指すなど，環境制御技術への積極的な取組みも始まっています。

普及センターでは，今後も営農が安定するよう継続して技術指導に取組んでいきます。



ブロッコリー栽培講習会

そば生産を核とした集落営農システムの確立

川崎町の古閑地区は中山間地域で，農地の未整備や農業者の高齢化により農業の維持が困難になりつつあったことから，農地整備に向けて古閑地区ほ場整備協議会が平成29年度に設立されました。地域の中心的な担い手について検討を重ねた結果，平成30年には協議会の役員により法人化に取り組むことを決めました。

令和2年度は，法人運営や農地中間管理事業をはじめとした各種事業の活用について勉強会を開催しました。また，法人設立後の共同作業に向けた準備として，ブロッコリー15aの試作に取り組みました。

播種作業から収穫・出荷作業まで初めてとなる共同作業に取り組んだ協議会役員からは，「共同作業や野菜栽培の大変さが分かる一方で楽しさも感じられた」という感想が聞かれました。次年度以降も面積を拡大して取り組んでいくことにしています。

未整備地区が多い川崎町内において，農地整備を契機とした集落営農のモデルとして，普及センターでは今後も支援していきます。



ブロッコリー定植作業

話題&お知らせ

経営継続補助金の実績報告等についてのお知らせ

経営継続補助金は、農林漁業者が新型コロナウイルス感染症拡大による影響を乗り越え、経営継続に向けた取組を支援するための事業です。

1次公募に応募した方は、交付決定された事業を実施中、又は完了していることと思います。また、2次募集の結果については、2月2日に発表されました。事業完了後は、支援機関の確認を受け、実績報告を行うこととなりますので、経営継続補助金事務局ホームページに掲載されている補助事業の手引きを御覧いただくとともに、それぞれ申請時の支援機関へ御確認・御相談ください。

～主な支援機関～

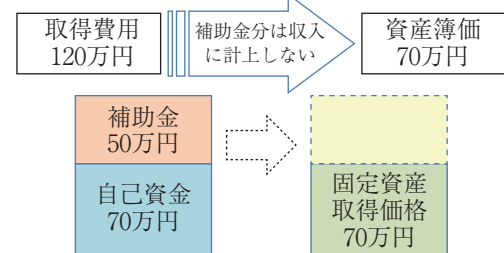
J Aみやぎ仙南（販売推進課） 0224-55-1870
 宮城県農業経営相談所 022-275-9192
 （みやぎ農業振興公社内）
 みやぎの酪農農業協同組合仙南支所 0224-52-3161

<国庫補助金等で取得した固定資産の簿記上の取り扱いについて>

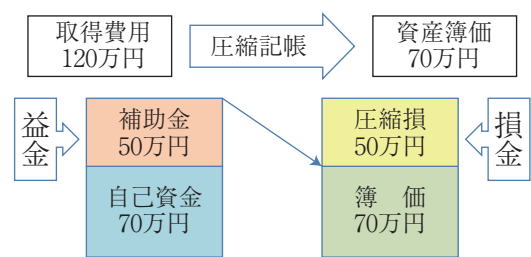
農業者が国又は地方公共団体等から固定資産の取得等に充てるために補助金等の交付を受けた場合において、その補助金等で交付の目的に適合した固定資産の取得等をしたとき、個人の場合は①総収入金額不算入、法人の場合は②国庫補助金等の額に相当する金額の範囲内で固定資産の圧縮記帳が認められています。（確定申告の際に必要な書類を提出するなど条件があるので留意してください。）

詳しくは、農林水産省のホームページを参照するか、お近くの税務署にお問合せください。

①<総収入金額不算入のイメージ>



②<固定資産の圧縮額の損金算入イメージ>



収量アップを目指すいちご栽培の新技术

近年の施設園芸栽培では、施設内の環境を適切に管理し、作物が最大限に光合成することで収量を向上させる「環境制御」技術が普及しつつあります。管内では、主にいちご栽培で取組が進んでおり、収量アップ、販売金額増加の効果が見られています。

この「環境制御」技術では、まず施設内の二酸化炭素を光合成に最適な濃度に保つ炭酸ガス施用を行うと最も効果が実感できます。さらに作物が炭酸ガスを吸収しやすい温度や湿度に管理し、これに応じて適切なかん水や施肥を組み合わせることで効果が高くなっていきます。

普及センターでは、取組の拡大を推進し、効果をさらに高くしていくための技術指導を行っていきます。



いちご栽培ハウスに設置した炭酸ガス発生器

ぶどう栽培者が増えています

生食用ぶどうについては、丸森町等でシャインマスカット等が栽培され、直売所を中心に販売され好評を得ており、最近では水稻の育苗ハウスや野菜等のパイプハウスを利用した栽培も広がりつつあります。

さらに、醸造用ぶどうは、蔵王町、七ヶ宿町、村田町、川崎町で栽培が始まっており、令和3年中に収穫が見込まれる園地もあり、地域内外から注目が集まっています。

普及センターでは、現地検討会、先進地視察研修、せん定講習会等を引き続き開催することで栽培技術の習得と産地育成を支援します。



醸造用ぶどう現地検討会

話題&お知らせ

水戸喜代子さん(柴田町)「宮城県農業・農村女性活躍表彰」最優秀賞を受賞

水戸さんは、女性農業者の人材育成や女性起業家としての功績が認められ、令和2年度宮城県農業・農村女性活躍表彰の女性起業・新規事業開拓部門で栄誉ある最優秀賞を受賞されました。

「柴田町女性地場産振興会」の代表等、女性農業者の起業等を推進する主要な役職を永年勤められ、6次産業化の牽引役として活躍されています。特に、柴田町の学校給食で40年以上の使用されている農事組合法人下名生ファームの「ぜいたく味噌」の誕生から中心的な役割を担い、農業経営の主要な部門に育て上げました。また、平成16年には、自宅に農産加工工房「花夢華夢」を設立し、独自の加工センスを生かした惣菜等を製造・販売し、女性起業家としての経営手腕を発揮しています。



水戸喜代子さん（柴田町）

【令和2年度アグリウーマンステップアップ講座を開催しました】

令和2年12月に大河原合同庁舎において、畜産（主に和牛繁殖）に携わる若い女性等を対象とした「令和2年度第1回次世代アグリウーマンステップアップ講座」を開催しました。講師に中小企業診断士を招き、経営者としての心構えやPDCAサイクルの活用方法について教えていただきました。また、先輩酪農家から、これまでの人生経験を踏まえた畜産経営の考え方を紹介していただきました。

この講座は今年度に3回実施する予定で、今回は、今回の講座を踏まえて、さらに踏み込んだ経営管理の講習と先進農家の視察を行う予定です。今後も、参加者の要望を取り入れながら講座を開き、女性農業者の畜産経営管理のスキルアップを応援します。



アグリウーマン講座

【若手りんご生産者の技術交流】

管内のりんご栽培は後継者不足から減少傾向にあり、後継者の技術交流の場も少なくなっています。そこで、白石市、蔵王町、大河原町、丸森町の若手りんご生産者を対象に、摘果講習会、先進地視察研修、亘理地域の若手との技術交流会等を開催し、栽培技術の習得及び技術交流を行っています。普及センターでは、次年度以降も対象者を増やして継続して支援していきます。



りんご若手生産者現地検討会

【仙南地域のNEWファーマー】岩渕正樹さん（川崎町）

岩渕正樹さんは、県内外での農業技術研修を経て、平成30年4月に川崎町で就農し、サツマイモを中心に農業を行っています。

幼い頃から物作りが好きだったという岩渕さんは、他県で働いていた際に食べた紅はるかの焼き芋の味に感動し、農業の道に進もうと思ったそうです。

丹精込めて育てた紅はるかで作った焼き芋や干し芋の甘さは格別で、口コミで評判が広まり、徐々に売上を伸ばしています。

今後は、生産量を拡大し、川崎町の名物の一つとして町内外の方々に評価していただきたいと頑張っています。



岩渕正樹さんと紅はるかで作った焼き干し芋

【仙南4Hクラブ員 大募集!!】

仙南地区農村青少年クラブ連絡協議会（現在9人）は水稻、野菜、果樹など様々な部門の若手農家が集まり、先進地の4Hクラブ員との交流や自らの課題解決に取り組むプロジェクト発表など通して交友を広げ、それぞれの経営力アップにつなげようと活動を行っています。また、県連4Hクラブの活動にも積極的に参加し、他地区クラブ員との交流で様々な連携を深めています。

若手農家との人脈を広げたい方、意識高いクラブ員と切磋琢磨してレベルアップしたい方、4Hクラブに参加してみませんか。興味のある方は普及センターまで連絡をお願いします。